



広陵町 竹取公園周辺地区 まちづくり基本計画

令和3年7月

～目 次～

1. 広陵町 竹取公園周辺地区まちづくり基本計画策定の背景・目的
2. 事業主体
3. 基本計画図
4. 事業推進に向けた取組
5. 事業効果（K P I）について

1. 広陵町竹取公園周辺地区まちづくり基本計画策定の背景・目的

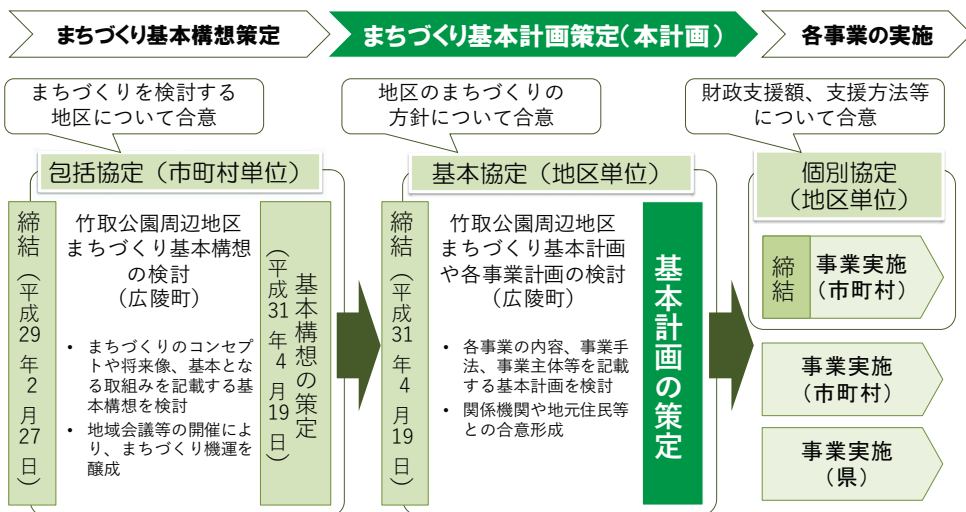
(1) 基本計画策定の背景・目的

広陵町と奈良県がまちづくりに係る取組に関して、平成 29 年 2 月 27 日付けで包括的な連携と協力に関する協定を締結、その後、竹取公園周辺地区におけるまちづくりのコンセプトや将来像、基本となる取組を記載した構想を策定し、平成 31 年 4 月 19 日付けで県との基本協定を締結しました。それら経緯を踏まえ、事業名、事業内容、事業主体、事業スケジュール、事業効果（K P I）等を明確にし、体系的に整理することで、複数事業の事業間調整を図るとともに、幅広い関係者が相互に連携しながら、効率的、計画的に事業を展開できるようにすることを目的として「広陵町竹取公園周辺地区まちづくり基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定します。

なお、計画策定の根底には、住民が安心できる健康で快適な生活環境を実現しつつ、公園や古墳などの地域資源を活かした賑わいのある住みよいまちづくりを進め、農業をはじめとする地域産業の創出に資する拠点の特色に応じた機能の充実や強化を図るとともに、町内のみならず広域的な拠点間相互の連携を図ることに留意するものとします。

まちづくり基本計画は、基本構想で定めたまちづくりの方針に対し、必要な事業内容・事業主体等を地域の皆さんのご意見をいただきながら作成したものです。この計画を基本として、民間事業者、行政が協働して、各種事業を進めていきます。

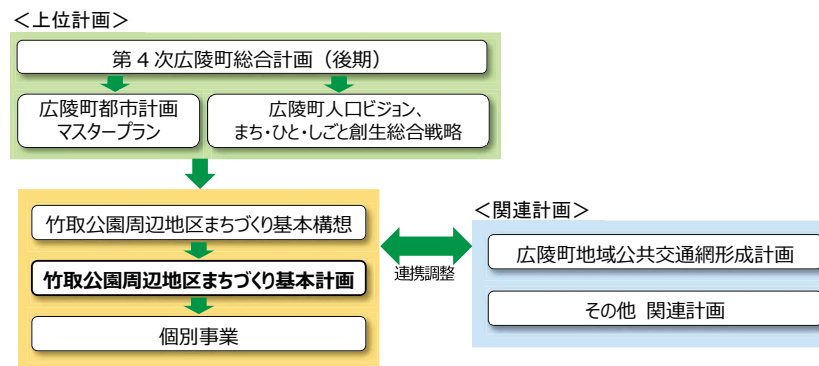
【本地区における連携協定の流れ】



(2) 基本計画の位置づけ

本基本計画は、町の上位計画である「第 4 次広陵町総合計画（後期基本計画）」や「広陵町人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略」を受け、竹取公園周辺地区を対象として、関連計画や県事業との十分な連携調整を図ることにより施策の相乗効果も期待しながら、まちづくりに資する施策を検討します。

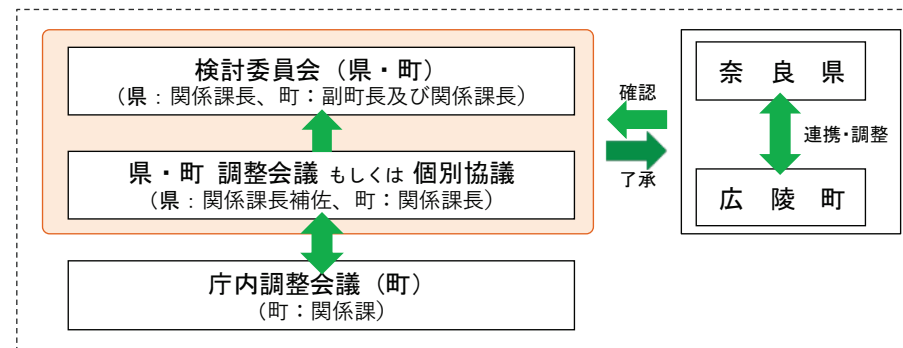
【基本計画の位置付け】



(3) 基本計画の運用方針

まちづくり基本計画を推進するため、奈良県と広陵町で検討委員会等を組織し、具体的な検討を進めることとし、必要に応じて、適宜計画内容を見直します。

【基本計画の組織体制】



※本計画は WS により町民意見を反映した基本構想をベースとしている。

(4) まちづくり基本計画の体系の整理

基本計画策定に向けた検討を進めた結果、新たに見えたまちの特徴を踏まえ、基本構想に挙げたまちづくりの体系の再整理を行いました。

【まちづくりのコンセプト】

花讃道プロジェクト ～公園を核とした賑わいのまちづくり～

基本方針① 新たな賑わいの創出

- 町道上田部奥鳥井線は、馬見丘陵公園や竹取公園、特定農業振興ゾーン、古墳等の観光資源等をつなぐ地区のエントランスである。
- 特定農業振興ゾーンでは、近年、イチゴ観光農園や農業塾としてイチゴ研修施設を設置するなど、イチゴ産地の復活に向けた取り組みが行われている。
- 地区のエントランスとなる町道上田部奥鳥井線をパークストリートとして捉え、良好な沿道景観の形成や歩行者利便増進道路の導入等により、民間を活用した賑わいの創出を図る。
- 観光農園や直売所などを活用し、農産物やイチゴのブランド化・PRによる地域の魅力向上を図る。

基本方針② 地域資源の活用

- 築山古墳は、国指定特別史跡に指定されている重要な観光資源である。平成12年度から史跡整備と発掘調査を継続して進めており、令和4年度に整備完了予定である。
- 竹取公園周辺には、築山古墳をはじめ讃岐神社、新木山古墳などの地域資源が点在している。
- 築山古墳を中心とした周辺整備を行う。
- 竹取公園や馬見丘陵公園と連携し、地域資源を活用した観光周遊ルートによる地区の魅力向上を図る。

基本方針③ 竹取公園等の魅力向上

- 竹取公園と馬見丘陵公園という2つの特徴のある大規模公園が隣接しており、馬見丘陵公園は、花の演出、イベントの実施により広域からの集客力が高い。
- 竹取公園は地元中心に子どもが遊べる遊具や広場が充実しているが、開園25年が経過しており、一部の施設に老朽化がみられる。
- カフェやレストランなど竹取公園に新たな賑わい施設を整備する。産業総合振興機構と連携し地場産業活性化に向け、地場産品関連したイベントを行う。
- 竹取公園を地域が安心して集える空間として再整備するとともに、集客力の高い馬見丘陵公園と花のイベント等の連携による利活用の促進を図る。

基本方針④ アクセス環境の改善

- 竹取公園、馬見丘陵公園へのアクセスは自家用車が主体であり、イベント時には混雑するため、周辺の民間施設の駐車場等を臨時的に活用している。
- 最寄りの鉄道駅から地区へのバス路線はあるが、竹取公園に直接アクセスできるバス停はない。
- 公共交通の利用促進や駐車場（臨時含む）の増設により、地区へのアクセス性を高め、イベント時の利便性向上を図る。

基本方針⑤ 地域の情報発信

- 築山古墳など歴史的価値のある地域資源や「かくや姫伝説」など地域の魅力ある情報を発信する場が少ない。
- 図書館や公園館等の既存施設の活用や地域活性化を進めるため民間事業者との連携を図り、地域の魅力発信を図る。

はなさんどう ・花讃道の由来

馬見丘陵公園は、馬見古墳群の保存を目的に整備された公園であり、そこへアクセスする道を古墳に参る道＝「参道（さんどう）」としてとらえ、また、公園の特徴である四季を彩る花を沿道にも植えることで花をたたえ親しまれる道となるよう「花讃道（はなさんどう）」と名付けた。
※ 馬見古墳群（馬見丘陵公園・竹取公園）へのメインアクセスとなる町道上田部奥鳥井線を「馬見花讃道」、竹取物語の舞台である讃岐神社にむかう道を「竹取花讃道」とする。

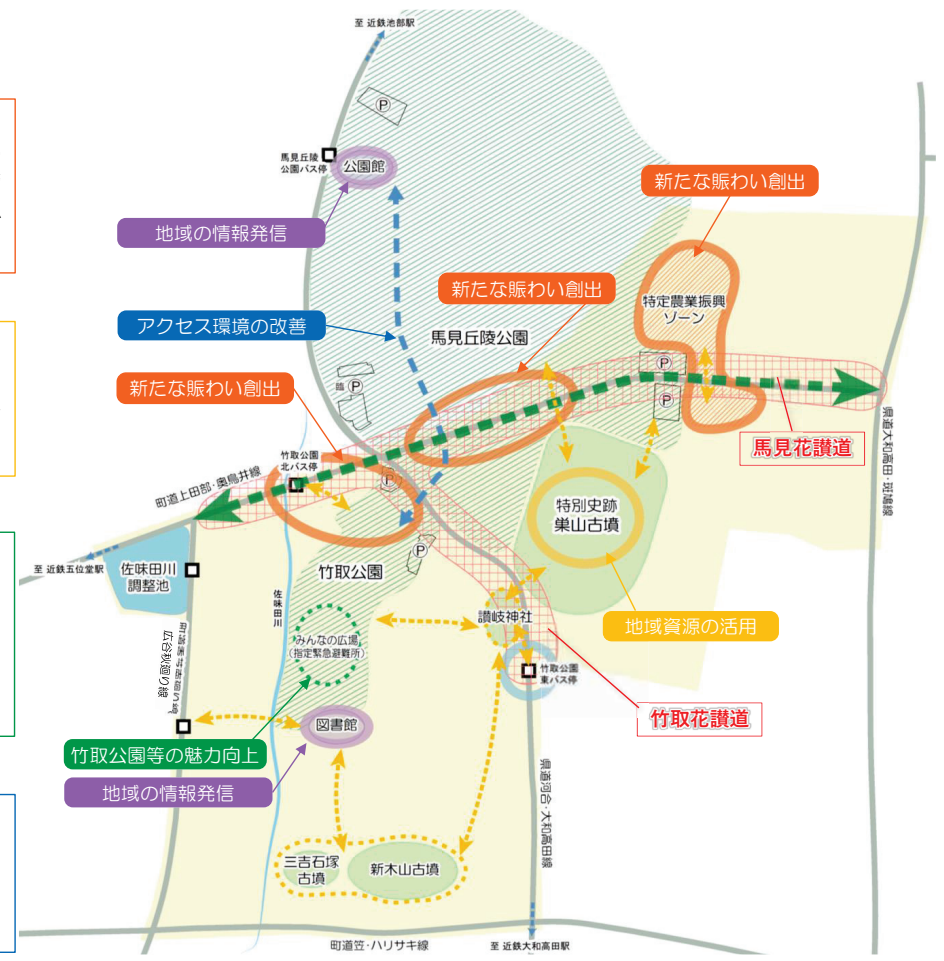


図. まちづくりのイメージ

(参考) 基本構想の概要

<地区の課題>

町の活力の向上

- 商業施設、飲食店が少ない
- 広陵町の特産品の品質を活かせていない
- 樹木が生長繁茂し、町道上田部・奥鳥井線から公園内の景観が見えていない
- 街路樹も景観を損ねており、公園と一体となった景観形成が必要

歴史ロマンのまちづくり

- 栗山古墳は、国特別史跡に指定されている重要な観光資源であり、馬見丘陵公園や竹取公園との連携強化が必要
- 讃岐神社、三吉石塚古墳等の歴史的資源や図書館との連携が必要

安全・安心のまちづくり

- 竹取公園は、大型車両の進入路や防災施設がない
- 竹取公園の外周道路が狭く、公園灯がある部分以外については薄暗い

健幸のまちづくり

- 公園管理が徹底できていない
- 毎日いきいきと公園内外を散歩できるような取り組みがない

子育て・教育のまちづくり

- 竹取公園は、遊具や園路等が老朽化しており、小さな子どもを遊ばせる施設や一時的な雨風を凌ぐ場所がない
- 準用河川佐味田川について、水辺の活用ができる空間がない

快適生活のまちづくり

- トイレ施設は仕様が古く利用しにくい
- 周辺や公園内に飲食できるスペースや休息できるスペースが少ない
- 佐味田川防災調整池からの種子飛散が問題となっている

利便性の高いまちづくり

- イベント開催時には周辺道路で渋滞が発生する
- 鉄道駅から離れており、バス路線は、竹取公園への直接アクセスがない
- 地区内の県道河合大和高田線には歩道の未整備区間がある

その他（地域情報の発信）

- かぐや姫発祥の地である紹介ができていない
- 地区内の栗山古墳等の歴史的資源や図書館との連携がない

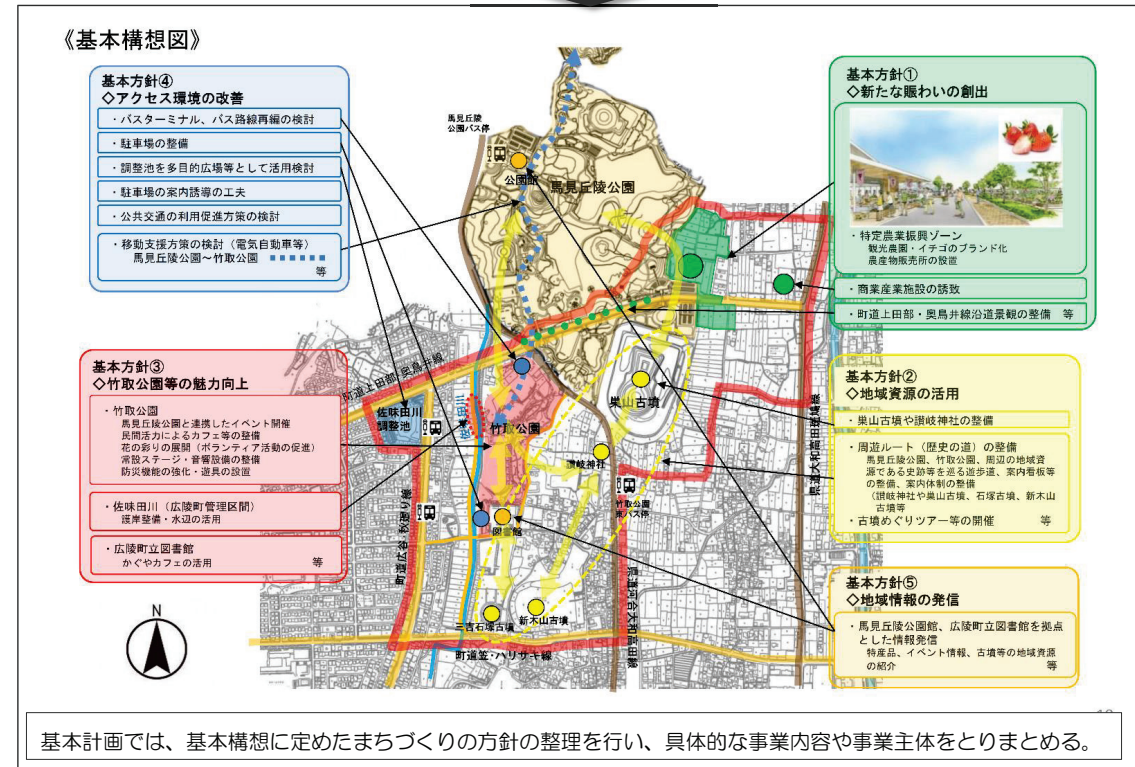
<まちづくりのコンセプト>



<まちづくりの方針>

- 基本方針① 新たな賑わいの創出
- 基本方針② 地域資源の活用
- 基本方針③ 竹取公園等の魅力向上
- 基本方針④ アクセス環境の改善
- 基本方針⑤ 地域情報の発信

<基本構想図>



基本計画では、基本構想に定めたまちづくりの方針の整理を行い、具体的な事業内容や事業主体をとりまとめる。

2. 事業主体

※本基本計画は、5年以内に完了または着手する具体的な取組に加え、それ以降の将来的な取組も含めて策定したものです。（5年経過毎に改訂予定）

町、県、または、民間事業者 が事業主体となる以下の事業を想定しています。なお、計画区域全体に対する影響が大きく、多方面との調整による事業推進が必要なものを重点事業としています。また、各事業の実施にあたっては、地域住民との協働に向けた仕組みや体制づくりについて検討を行いながら、新型コロナウイルスの流行を踏まえた様々なニーズ、変化に柔軟に対応できるよう、各事業の検討を進めていきます。

基本方針①：新たな賑わいの創出

事業種別	事業名称	事業主体（例）	事業内容	短期スケジュール【R3（2021年）～R7（2025年）】						中長期スケジュール【R8（2026年）～】
				R2 (2020年)	R3 (2021年)	R4 (2022年)	R5 (2023年)	R6 (2024年)	R7 (2025年)	
ハード	【重点】 ①-A: 農産物直売所整備事業	町 産業総合振興機構	・既存管理事務所を活用し、竹取公園周辺の県の特定農業振興ゾーン等で採れる農産物の販売所を設置する。 ・管理事務所エントランス広場を活用する。			実証実験	計画・設計 ※公園魅力施設整備と連動	工事	運営	
	①-B: 商業・サービス施設の誘致事業	町	・エリア内には、商業施設等が少なく、来訪者及び地域住民の利便性を向上させるため、町道沿いに新たに商業施設を誘致する。		商業産業施設の誘致活動					
		町/民間	・町道沿いの竹取公園に近接するエリアにおいて、地場産業（靴下）に関する見学・体験施設等を導入し、竹取公園と連携を図る。		地区計画策定計画	設計	工事	運営		
	【重点】 ①-C: 町道上田部奥鳥井線沿道景観整備事業	町	・竹取公園の公園魅力施設整備に合わせて町道沿いの擁壁高を抑えた敷地造成とし、町道側への圧迫感を抑えた整備をする。				公園魅力施設整備に合わせた修景整備			
		県	・馬見丘陵公園外周は樹木が繁茂しており、町道から公園内の景色が見えないため、町道沿いの公園内植栽管理の頻度を高める。		町道沿いの公園内植栽管理				（継続実施）	
【重点】 ①-D: 町道上田部奥鳥井線歩行者利便増進道路整備事業	町	・歩道整備・無電柱化等の沿道景観整備を検討する。 ・道路空間の有効活用を図るため、片側2車線を1車線にし、巢山古墳西交差点のラウンドアバウト化について検討する。合わせてラウンドアバウトの中央島にシンボルとなるモニュメント設置を検討する。（県道との交差点のため県と調整） ・歩道を拡張して賑わいエリアとして整備し、民間の利活用等により、歩行者利便を増進する。 ・自転車通行帯を整備する。		基礎調査・実証実験	基礎調査・実証実験の結果を受け、関係機関と協議・調整					
ソフト	①-E: 農産物の流通促進・直売所運営母体の経営基盤強化事業	町 産業総合振興機構	・広陵町産業総合振興機構を中心として、新たな賑わい創出や6次産業化を推進し、農産物の高付加価値化、流通促進を担い、直売所の運営母体として経営基盤強化を図る。		産業総合振興機構の経営基盤強化 農産物の流通促進 ※公園魅力施設整備と連動				直売所の運営開始	
	①-F: イチゴのブランド化・PR事業	町	・広陵町の特産品（イチゴ）のブランド化の方向性を検討し、コンテンツを制作、PR・情報発信を推進する。HP等による情報発信とともに、来訪者への情報発信の場として観光農園・直売所を活用する。				方向性検討	コンテンツ制作	（HPでの）PR・情報発信	
		町/民間	・観光農園の運営により、利用者に広陵町の農産物・特産品に触れてもらう機会をつくる。		観光農園の運営				（継続実施）	
①-G: 地場産業PR事業（地場産業のPR、イベントの開催）	町/民間	・竹取公園のイベント等と連携して、広陵町の農産物・特産品、地場産業などのPR、イベントを開催する。情報発信の場として、公園館や図書館等を活用する。			地場産業等のPR・情報発信 イベント開催			（継続実施）		

基本方針②：地域資源の活用

事業種別	事業名称	事業主体（例）	事業内容	短期スケジュール【R3（2021年）～R7（2025年）】						中長期スケジュール【R8（2026年）～】
				R2（2020年）	R3（2021年）	R4（2022年）	R5（2023年）	R6（2024年）	R7（2025年）	
ハード	【重点】 ②-A: 巢山古墳周辺整備事業	町	・国特別史跡に指定された巢山古墳について、周辺整備（ウォーキング・ランニングコース、馬見丘陵公園等からのアプローチ等）を行う。	巢山古墳周辺整備						
	②-B: 巢山古墳周辺の視点場確保	県	・馬見丘陵公園内から巢山古墳への視認性を高めるため、巢山古墳に隣接し、樹木が繁茂するエリアの植栽管理の頻度を高める。	巢山古墳への視点場での公園内植栽管理						（継続実施）
	【重点】 ②-C: 巢山古墳・讃岐神社等へのアクセス等整備事業	町/県	・巢山古墳周辺整備に合わせて、駐車場からのアクセス道整備、南側エントランス部の広場整備（馬見丘陵公園入口との一体化）を行う。	調整 植栽整備						
		町/県	・町内外からのアクセス環境改善を図る。特に竹取公園周辺について歩行空間の改善を図る。 ・①-Dの事業に合わせて、竹取公園出入口の右折進入レーンの設置を検討する。	計画・設計						整備
		町	・周遊ルートとして讃岐神社参道等の整備を行い、魅力化を図る。 ・トイレを新設する。（巢山古墳や讃岐神社の利用者向け）	計画・設計						整備
	②-D: 周遊ルート(歴史の道)サイン整備	町/県	・広陵町ウォーキングマップに基づき、竹取公園・馬見丘陵公園を中心としたサインシステムを計画、案内板等の設置により周遊ルート（歴史の道）を整備する。 ・馬見丘陵公園の案内サインと連携する。	板面差し替え						
ソフト	【重点】 ②-E: 古墳VR映像コンテンツ作成	町	・VR映像技術を活用し古墳の歴史学習の機会を新たに設ける。	巢山古墳VR映像作成						
	②-F: 歴史的資源の活用事業 (古墳めぐりツアー、イベントの開催)	-	・馬見丘陵公園内等で古墳めぐりツアーを継続的に実施する。	ツアーの継続開催						（継続実施）
		町	・巢山古墳外堤を利用したイベント（クロスカントリー、マラソン、フォトゲイニング等）やドッグウォークの社会実験を開催し、町内外へ古墳群や地域の魅力をPRする。	新規イベント実施						（継続実施）

基本方針③：竹取公園等の魅力向上

事業種別	事業名称	事業主体（例）	事業内容	短期スケジュール【R3（2021年）～R7（2025年）】					中長期スケジュール【R8（2026年）～】	
				R2 (2020年)	R3 (2021年)	R4 (2022年)	R5 (2023年)	R6 (2024年)		R7 (2025年)
ハード	【重点】 ③-A: 民間活力による公園魅力施設整備事業	町/民間	・日常の賑わいを創出するため、竹取公園の魅力を活かしたカフェ・レストラン等を整備する。 ・災害時の活用を想定し、防災倉庫を併設する。		基本計画 ※農産物直売所と連動		事業者公募 基盤設計	工事	モニタリング	
		民間					施設設計	工事	運営開始	
	③-B: 公園施設（遊具等）リニューアル事業	町	・老朽化の進んでいる竹取公園の遊具について、「公園長寿命化計画」に基づき遊具・園路をリニューアルし、安心して遊べる公園として魅力向上を図る。 ・既存トイレを改修する。（老人、子育て世代向け）		計画に基づく遊具のリニューアル					（継続実施）
	③-C: エントランス改修事業	町	・竹取公園のエントランス部を改修し、一部駐車場、サイクルポート及びバスの乗入れ場として活用する。 ・修景池を埋め立て芝生広場とし、ミニステージを設置する。 ・①-Dの事業に合わせた出入口付近の改修を行う。	計画	設計	エントランス整備				
	【重点】 ③-D: みんなの広場改修工事	町	・竹取公園の多目的広場を災害活動拠点として活用するために、広場改修計画・設計・整備を行う。 ・イベント時に利用できる常設ステージを新設する。 ・活動拠点（常時：イベント等のステージを想定）とヘリポート離着陸、資材搬入場所を整備する。	計画	設計	広場整備				
	③-E: 佐味田川左岸道路の拡幅整備（みんなの広場への橋梁含む）	町	・緊急車両の出入り口・アクセス道路を整備する。			計画	設計	工事	運用開始	
ソフト	【重点】 ③-F: 公園連携イベント事業	町/県	・竹取公園で、花や古墳、農産物（イチゴ等）、スイーツをテーマにしたイベントを馬見丘陵公園のイベントと連携して開催する。	企画	イベント連携開催				（継続実施）	
	③-G: 花の彩の展開事業	町	・馬見丘陵公園と花壇に植える品種の調整を行い、竹取公園でも賑わい創出のためのイベントを開催する。また、花壇の維持管理を行う。	品種の調整		イベント実施の調整 花壇の維持管理			（継続実施）	
	③-H: 地域情報の発信事業（広陵町図書館の活用）	町	・図書館を情報発信の拠点として活用し、町のPR、移住定住者や関係人口の創出を図る。	ツール作成	情報発信				（継続実施）	

基本方針④：アクセス環境の改善

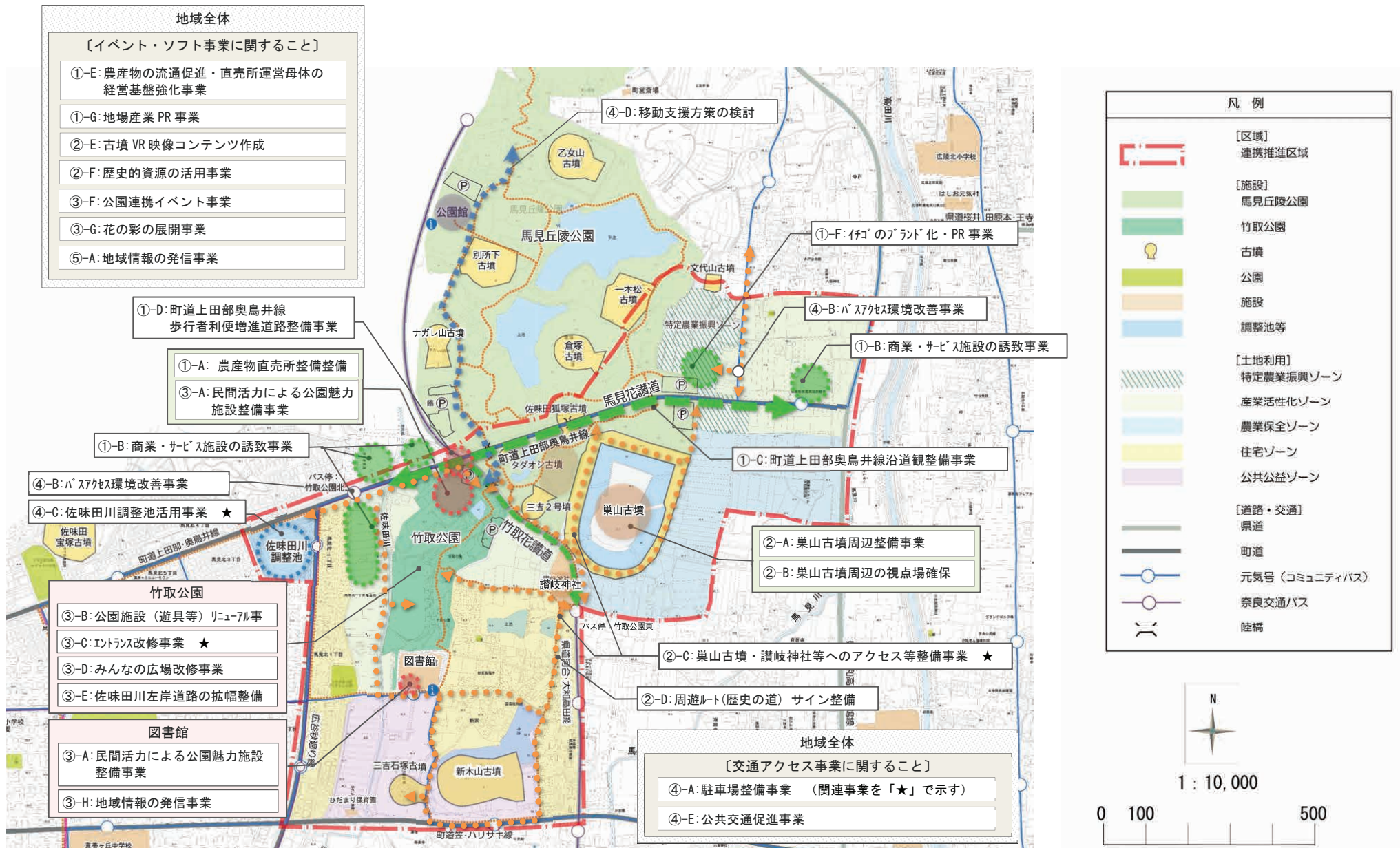
事業種別	事業名称	事業主体（例）	事業内容	短期スケジュール【R3（2021年）～R7（2025年）】						中長期スケジュール【R8（2026年）～】
				R2（2020年）	R3（2021年）	R4（2022年）	R5（2023年）	R6（2024年）	R7（2025年）	
ハード	④-A: 駐車場整備事業	町	・竹取公園、巢山古墳、讃岐神社は、自動車によるアクセスが主であり、イベント開催時には渋滞が発生するため、駐車場の確保・整備や案内誘導を検討する。 ・民間活力導入に合わせて、駐車場管理のあり方についても検討する。		計画		設計		整備	(継続実施)
	④-B: バスアクセス環境改善事業	町/ バス事業者	・駅から竹取公園や観光農園への公共交通によるアクセス環境を改善するため、バス停の追加など路線再編を検討する。 ・土日祝のみの竹取公園への乗り込み等を検討する。		バス停追加の調整・実施					(継続実施)
	④-C: 佐味田川調整池活用事業	県	・佐味田川調整池は、都市内緑地としてのニーズが低下し、周辺住民から苦情が出ていることから、状況に応じて樹木伐採・伐根を実施する。	伐採・伐根	植栽管理					
町/県		・佐味田川調整池の対策量 74,400m ³ を確保しつつ、地元住民とともに多目的広場として常時の活用方法を検討し、関係機関と協議を行う。		活用方法の検討	検討結果を受け、関係機関と協議・調整					
ソフト	④-D: 移動支援方策の検討	町/県	・馬見丘陵公園、竹取公園内の移動支援方策として、トラムルート試行・延伸の検討を行う。							試行・延伸
	④-E: 公共交通促進事業	町	・公共交通（コミュニティバス）の利用を促進するため、キャッシュレス決済、ポイントカード制度、バスロケーションシステムの導入など公共交通利用促進方策を検討し、実施する。 ・企画切符等の検討を行う（竹取公園で使える割引券やイベントに連動した切符など）。		公共交通利用促進方策の検討・実施					(継続実施)

基本方針⑤：地域情報の発信

事業種別	事業名称	事業主体（例）	事業内容	短期スケジュール【R3（2021年）～R7（2025年）】						中長期スケジュール【R8（2026年）～】	
				R2（2020年）	R3（2021年）	R4（2022年）	R5（2023年）	R6（2024年）	R7（2025年）		
ソフト	⑤-A: 地域情報の発信事業	町	・SNSの活用により、広陵町内のタイムリーな情報を発信する。また双方向の発信方法を検討する。 ・地域住民との協議に向けた仕組みや体制づくりについて検討する。		ツール作成					情報発信	(継続実施)

3. 基本計画図

竹取公園周辺地区のまちづくり基本計画図は、以下に示すとおりです。

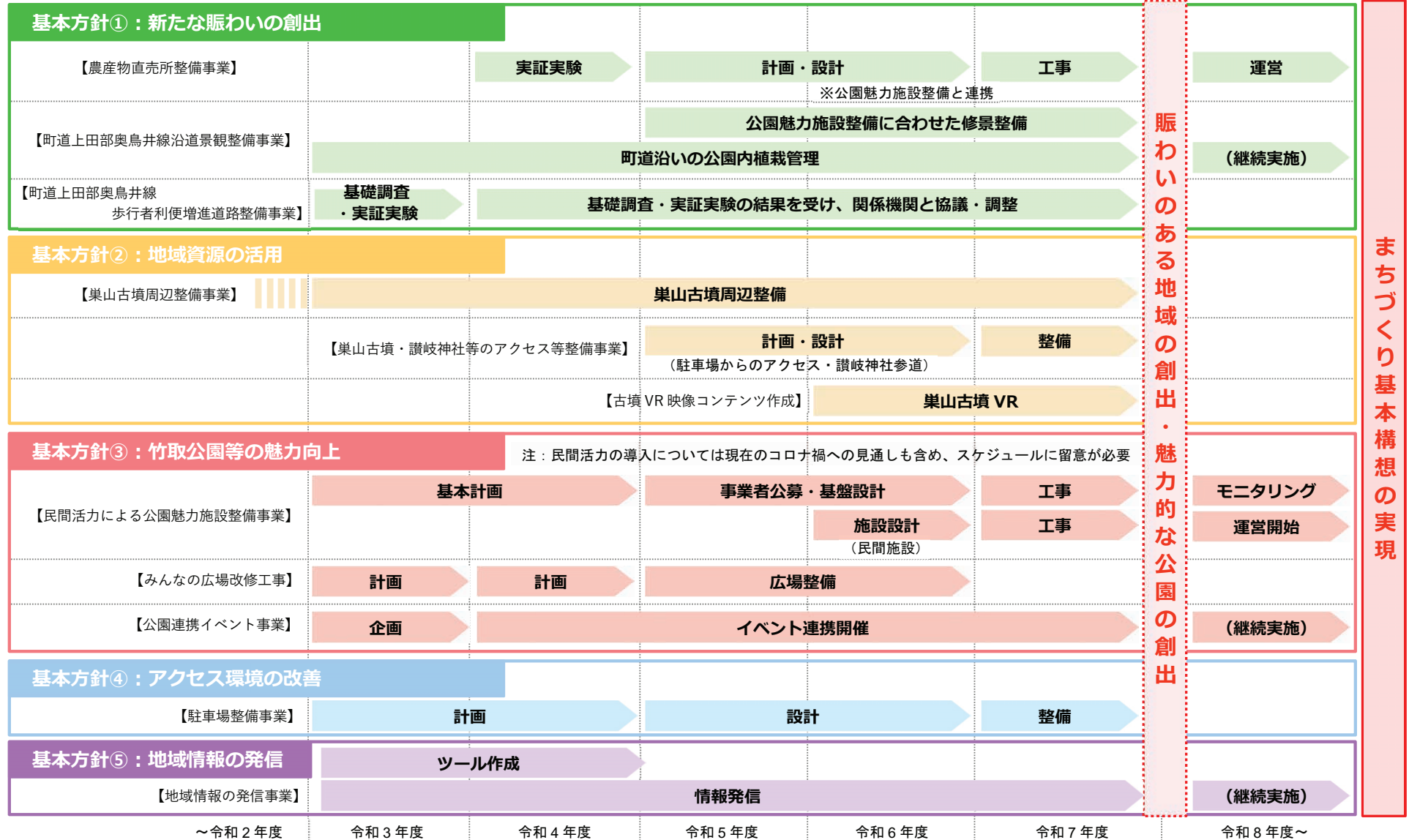


※ 元気号（コミュニティバス）路線は、令和元年10月1日に見直し

4. 事業に向けた取り組み

まちづくり基本計画の実現に向けて、基本方針毎に整理した事業について、スケジュールやタイミングを明確にするとともに、各事業がどのような役割を果たしているかを意識し、地域住民、農業従事者、民間事業者、行政が協働して戦略的に取り組みます。

■ 事業推進に向けた取組イメージ



5. KPI

事業効果評価指標（KPI）の設定については、今後の運用面を鑑み、「広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版」等の関連計画で設定している評価指標を参考として抽出し、本地区における目標値を設定します。

■ 事業効果評価指標（KPI）の参考指標

指標分野	指標	現在値	目標値	出典資料
町民の満足度	公園・緑地の整備状況に関する町民の満足度	63%（平成27年度）	68%（令和3年度）	広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版
町民の満足度	道路の整備状況に関する町民の満足度	37.7%（平成27年度）	40%（令和3年度）	広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版
観光・交流	かぐや姫まつり来場者数	18,300人（平成27年度）	30,000人（令和3年度）	第4次広陵町総合計画後期基本計画
観光・交流	文化財ガイド案内件数	17件（平成26年度）	40件（令和3年度）	広陵町まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版
観光・交流	当町への訪問者数の増加（馬見丘陵公園・竹取公園周辺のRESAS人口流動メッシュ分析合計ベース（ピーク月））	92,000人（平成30年度）	94,000人（令和2年度）	広陵町中小企業小規模企業振興基本条例に基づく「広陵町産業総合振興機構」設立による各産業分野の雇用創出計画



■ 事業効果評価指標（KPI）の設定

指標分野	指標	現在値	目標値（令和8年度）
町民の満足度	公園・緑地の整備状況に関する町民の満足度	74%（令和2年度）	78%
町民の満足度	道路の整備状況に関する町民の満足度	45%（令和2年度）	50%
観光・交流	かぐや姫まつり町外来場者率	53%（令和元年度）	60%
観光・交流	文化財ガイド案内件数	34件（令和元年度）	50件
商業・地域活性化	農産物直売所における地域特産品の購入者数	—	50,000人
商業・地域活性化	歩行者利便増進道路周辺の出店件数	—	50件